

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標 1. いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2. 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3. わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4. 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。			
分野	重点項目	評価	成果と課題	改善策	
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程の研究(新教育課程対応、学校設定科目の適正)	B	前年度の課題を引き継ぎ、より多くの会合を持って、次年度教育課程について丁寧な話し合いができた。	芸術科目の配置について、次年度も研究・協議を行う必要があり、今年度より早期から会議を持ちたい。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒に対応した授業展開の研究。(全職員の研究・協力態勢)	B	職員研修や職員間の連携を通して授業展開の工夫を行った。少人数の講座ではあるが今後も工夫が必要である。	情報を共有しながらよりよい対応を検討していく。特別支援員の支援や助言は引き続き必要である。
		3 授業の再点検による充実・改善(教師間の研修、授業アンケートの実施)	B	授業アンケートの実施を通して充実・改善を図った。	授業アンケート、研修、授業公開など様々な機会からより充実したものになるよう努力する。
		4 声かけなど、学習意欲を喚起するための支援ができたか。	A	個別支援を実施したが、仕事との両立や家庭内の問題など、対応が難しいところがあった。	引き続き粘り強く支援していく必要がある。
生徒指導	生徒理解を深める	5 家庭環境や就業状況などを把握し、生徒の生活状況などを理解できているか。	A	三者懇談会、生徒との個別懇談を実施した。又特別支援員、学校医に相談し、的確な情報を得ることができた。保護者の理解と協力が必要である。	家庭との連携を深め、報告・連絡・相談を怠らないよう留意したい。職員間でも、生徒の「おや」と思う点について見逃すことなく予防的対応をしていきたい。
	交通安全指導の実施	6 通学方法を把握し、安全に通学する指導がされているか。また、毎日の生活にも安全意識を持った行動が出来るように投げかけているか。	B	原付きバイク事故が3件、普通車事故が1件発生したが、大事には至らなかった。事故件数0が課題である。	交通事故は命にかかわることなので、日々交通安全指導を行っていききたい。登下校の指導も強化していきたい。
	安全・安心な学校づくり	7 学校生活を送るうえで望ましい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、規則の遵守)	B	発達障がい傾向の生徒がおり、養護教諭、特別支援員と相談しながら適切に対応できた。年々良好な授業態度が育っている。細かい部分での規則違反はあるが、日常生活場面で指導したい。現金などの盗難は発生していない。	授業では学び直しの生徒が多数在籍しており、生徒が関心を示し、意欲的に学習する様子を立って講じ、基礎学力をつけたい。当たり前のことが当たり前でできる生徒の育成をしていきたい。
		8 お互いを尊重し、人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取り組みを行うことができたか。	A	人権講話、全体集会、HR、授業などの学校生活の中で人権感覚を養うことができた。1年次、2年次でSSTを実施し効果があった。	ネットによる人権侵害はないが、引き続き予防に努めたい。全校参加の行事などを通して、仲間づくりを行う中で、いじめのない雰囲気作りに努めたい。
	基本的な生活習慣の定着	9 家庭での生活や学校生活が安定した状況になっているか。(生活実態調査の検討、遅刻・欠席指導。)	B	規定間際まで欠席する生徒や、4年次生では最低単位で卒業しようとする生徒の指導が課題である。	欠席・欠課・遅刻など、時間に関する習慣がルーズで授業にも影響しているため、初心に返らせ時間遵守の気持ちを育てたい。
	相談支援	10 個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動につなげる支援を行うことができたか。	A	特別支援員や担任との個人面談、三者懇談会、養護教諭の保健室での生徒状況把握、職員同士の会話などを通して得た生徒の情報や課題を、職員全体で共有し、対応することができた。	専門的な立場で生徒の状況を把握し、職員と連携した生徒対応を実施するためにも、特別支援教育研究指定校への指定を引き続きお願いしたい。
進路指導	進学・就職指導の充実	11 希望調査を実施し、進路意識の喚起、進路希望の把握、適切な情報提供ができたか。	A	進路ガイダンス、および独自の求人一覧表を全校生徒に配布し意識を喚起した。それをもとに希望調査を実施し、速やかに集計結果をまとめた。	求人情報の収集の工夫を図り、利用者の利便に資する。
	キャリア教育の推進	12 進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	A	利用できる求人情報を随時調査し通知した。それら資料を基に担任を中心として個別指導を充実させた。	進路希望調査を充実させ、個別の希望に対応出来るようにする。
		13 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な学習の時間」等の中で、体験活動を経験させることができたか。	B	国語表現、就職チャート、ビジネスコミュニケーション、キャリアデザインなどの教科学習や総合の時間を使ったソーシャルスキルトレーニングなどで、包括的にキャリア教育を行うことが出来た。	次年度も引き続きこの方向でキャリア教育を進めたい。
教育活動	クラス運営	14 個々の生徒に応じた履修指導や、クラス・学年でのSHR・LHRの効果的な活用ができたか。	B	個に応じた履修指導を実施することができた。	引き続き、LHRの効果的な活用方法を検討していく。
	生徒会活動などの充実	15 保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。(通常の連絡・保護者懇談会の活用)	A	クラス担任を中心に、連携を取り合いながら進めることができた。	成人した生徒についても必要に応じて家庭連絡を取っていく。
		16 文化祭や学校行事に多くの生徒が参加し、計画・実行できるよう支援することができたか。	B	文化祭の出席率は昨年より下がったが、文化部の生徒にとっては成長する場面もあり有意義だった。	出席率をあげる工夫が必要。
学校運営	円滑な学校運営	17 生徒会活動・部活動の充実が図られたか。	B	文化部のマンガ・イラスト部は積極的に活動し、コンクールで賞をもらうなど活躍した。	人数が少ない中、運動部の活動を積極的にしていく。
		18 校務分掌の合理的・効率的な運営ができたか。(限られた人数で複数の分掌を持つ中で)	B	限られた人数の中、協力体制により公務分掌の効率的な運営ができた。	学校運営が充分に出来る最低限の職員の配置をお願いしたい。
		19 生徒データの管理と正確な資料づくりににより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	B	懇談会などを通して定期的に生徒状況を把握するよう努めた。	生活状況の変化に即して資料整理を行っていく。
	20 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや	B	生徒の実態に応じて改善を進めた。適切な見直しができているか見極める。	きめ細かな学習指導や支援を通して生活力をより向上させる。	
	開かれた学校づくり	21 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々の学校への理解。)	B	学校公開と授業公開を同日に実施した。具体的な情報を提供できた。	HPを通して、地域や外部の方への情報提供を充実させたい。
22 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。	B	保護者が学校の学習環境整備などに参加し、生徒・職員ともに学校作りに参加できた。	求人開拓は難しいが同窓会などへ働きかけていきたい。		